

愛知医科大学外科学講座（腎移植外科） 講座紹介文

外科学講座（腎移植外科）は、2012年4月に設置されました臓器移植外科学寄附講座での腎移植の実績が評価され、2015年4月に正規講座として創設されました。腎不全治療の一つとして腎移植の普及・定着を図り、東海地区、中部地区での移植医療の発展に貢献したいと思います。学内での腎臓病総合医療センターの一翼を担い、地域に密着した医療を推進します。



患者 QOL、長期移植成績のさらなる向上をめざし、臨床に直結した基盤研究・エビデンス創出のための臨床研究を積極的に行います。学内、学外の医療機関、研究機関と幅広く共同研究を進め、世界に情報を発信していきます。移植医療・研究活動を通して全国から誰もが気軽に集まることのできる活力あるコミュニティを創造し、日本の移植医療を担う移植外科医・内科医、コーディネータ、薬剤師、検査技師、研究者など将来の人材育成に努めたいと思います。

愛知医科大学
外科学講座
（腎移植外科）
教授 小林孝彰先生

移植にはドナー、レシピエントともに、相手を思いやる気持ちが大切です。しかし、移植に至るまでには、悩み、葛藤も存在します。私どもは、腎臓内科、精神科（こころのケア）、看護部、薬剤部、検査部、栄養部、事務部などと連携し、患者さん、ご家族に最善の治療を選択していただけるようお手伝いします。そして、最適の移植医療を提供し、ドナーの方も含めて生涯にわたり診察させていただきます。

私たちは、移植を通して、愛、希望、勇気、夢、喜び、感謝といった感動を皆さんから受け取っています。

（連絡先： 0561-62-3311 レシピエント移植コーディネーターまで）

2月20日の講演会は

「高度救命救急センターが設置されている愛知医科大学は、臓器提供施設として指定されています。「いのちの贈り物」として、提供された臓器は、移植を受けた患者さんの中で生き続けます。患者さん、ご家族の尊い思いをかなえるために、2016年4月から専従の院内コーディネーターが選任され、院内体制の整備、研修会・シミュレーションの開催など院内職員への移植医療に関する啓発、患者さんのご家族への対応、日本臓器移植ネットワーク、院内関係部門との連絡調整などの業務を行っております。ご家族に正確な情報を伝え、患者さんの終末期に後悔のない選択をしていただきたいと思います。今回、ライオンズクラブ国際会長、そして、木沢記念病院・多治見市民病院理事長の山田實紘先生を愛知医科大学にお招きし、「移植哲学と浪漫」についてご講演をいただくことになっています。山田先生は、若い時に脳外科医として、救急の最前線で活躍され、当時の臓器提供の経験など、移植医療に対しての熱い思いを語っていただきます。

ドレミの広場は、「愛知医科大学では、2012年から腎移植を開始しております。私どもの施設は、他の施設と比較して、高齢のドナー、レシピエント、夫婦間の移植、ABO血液型不適合移植、先行的腎移植が多いという特徴があります。さらに、患者会も発足し、ドレミの会（「ド」ナー、「レ」シピエント、「み」んなの会）では、定期的に勉強会を行い、移植に関する心配事、日々の生活で注意すべき点などを話し合っています。これから、移植を受ける方、興味のある方、悩んでいる方、移植後の方も、遠慮なく連絡ください。